

笠沙地区振興協議会元気づくり委員会（南さつま市）

地域のシンボルを活かして活気の溢れるまちに！



令和5年1月1日時点



野間地漁港

地区概要

笠沙地区は、薩摩半島の西南端に位置し、三方を東シナ海に囲まれている。8つの自治会で構成されており、住民の大半が漁業従事者。

コミプラ設立の経緯

平成17年11月に旧1市4町（加世田市、笠沙町、大浦町、坊津町、金峰町）が合併し、それまで行われていたコミュニティ事業を引き継ぐような形で平成20年8月に「笠沙地区振興協議会元気づくり委員会」を設置した。設立に

あたり、地域住民による将来を見据えた話し合いが盛んに行われ、コミュニティ活動の活性化に繋がった。また、地域の課題解決や資源を活かした身近な地域づくりを考え実践し、住民の交流活動を通じて連帯感を高めるため、「元気づくりプラン」を作成し、笠沙地域の活性化に取り組んできた。

平成29年度には2期目となる「元気づくりプラン」を作成し、更なる地域づくりや生きがいづくりに取り組んでいる。

特徴的な活動

①笠沙のシンボル、宇治群島ツアー

笠沙の黒瀬地区が平成10年に「星空日本一」に選ばれ、綺麗な星空が地域の自慢であることから、無人島である宇治群島で星空を観測する1泊2日のツアーを平成28年から行っている。参加者は毎年約20名限定で、地区住民の船で宇治群島に渡り、散策や釣り、星空観察などを行っている。宇治群島は1909年まで有人島であった島で、なかなか行くことのできない島であるため、リピーターがいる人気のツアーとなっている。

参加者は県内だけでなく全国各地から集まり、リピーターもいることから、交流人口の拡大につながっていると同時に、地域外の人との交流は地域住民の楽しみとなっている。



宇治群島ツアー

②地域外の人も呼び込む！様々なイベントの企画

笠沙の海岸線と野間岬を見下ろす高台にある夕日ヶ丘公園では、東シナ海へ沈む美しい夕日を見ることができる。ここでは、南さつま市地域元気づくり事業「ふるさと『きばっど』事業」を利用して、公園を整備し、「野間岬ふれあいウォーキング」イベントを開催している。

コロナ禍で思うようにイベントやコミュニティ活動ができない中で、地域の元気を取り戻すために令和4年に始めた。笠沙地区だけでなく、地区外の人にも参加してもらい、20分程度の道歩きと公園での抽選会などの活動を通して地域内外での交流を深めている。

その他にも、夕日コンサートや運動会、男性向けの料理教室として蕎麦打ちや天ぷら、郷土のお菓子作りを行うなどのイベントも実施しており、イベントの運営や参加することが、地域の人々の生きがいにつながっている。



道歩き

今後の展望（コミプラの声）

今行っている活動を続けていくことが一番。特に、今メインで行っている宇治群島ツアーや、毎年行っている運動会、令和4年から始めた道歩き（夕日ヶ丘公園周辺のウォーキングイベント）を今後も続けていく。また、サイクリングイベント「ツール・ド・南さつま」のコースに笠沙地区も入っており、参加者へのおもてなしとして地域で提供しているカレーは好評。こういった活動もきっかけに、笠沙地区の魅力を地域外に発信していきたい。



「ツール・ド・南さつま」でのおもてなし

南さつま市から一言

笠沙地区は地域資源を活かした魅力ある取り組みを行っている地区です。豊かな自然を地域の宝とし、その魅力ある宝たち「海」「山」「空」に光をあてたイベント等を開催するなど、地域外の人を呼び込む工夫をしており、今後の活動にも期待しています。是非皆様も笠沙地区にお越しください。

利用した補助金など

・ふるさと「きばっど」事業（市）（H26～27年度、R3年度～）

Passion

地域外の人を巻き込んで、地域の魅力を余すことなく伝えるべし！